

八戸市地域おこし協力隊活動状況報告書

八戸市長
熊谷 雄一 殿

隊員氏名 福岡 沙織

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2024年3月分】

1. 実施した活動の概要・状況

ふるさと寄附金業務、ECサイト・ローカルマーケットオンラインショップ運営、取材・撮影、ラジオ出演、及びSNSによる広報活動を行った。

(主な活動)

◇視察研修

3月21日・22日にかけて、地域おこし協力隊として、岩手県一関市と遠野市の観光やまちづくりに取り組むDMO・NPO団体を視察した。

世界遺産平泉・一関DMOでは、「滞在型観光の促進、地域課題解決に向けた観光地域づくり」に関する取組について講義を受けた。旅行における現代のトレンドは「異日常を体験すること」だという。かつては、観光名所を団体で見に行くことや、非日常的なアクティビティを体験しに行くことが旅行の主なトレンドであった。しかし、今後は、旅行者が他の地域のリアルな日常生活を体験する「異日常」の需要が高まる傾向がある。我々が当たり前だと思っている日常生活が、旅行商品として価値を持つ可能性が大いにあることが分かった。

NPO法人遠野山・里・暮らしネットワークが運営するグリーンツーリズム提供団体「旅の産地直売所」では、遠野市内の民宿で農家と一緒に郷土料理を作り食事をする「農家のごっつおランチ」プランを体験した。民宿の前にある畑で採った米や野菜、山菜を下処理からすることで、旬の食材の種類や栄養に関する知識が増えると感じた。また、旧南部藩の郷土料理であるひつつみ汁作りをとおして、その土地の食文化を学ぶことが出来た。食事の際は民宿のオーナーと、食や健康、そしてプライベートの話題まで様々な会話をし、まるで実家に帰ったような感覚を味わえる空間であった。この体験プランでは、食育と、遠野市のリアルな日常体験が得られた。一関DMOで視察した観光地域づくりの講義の中で、現代の観光に求められるのは「異日常」であることを学んだが、この「農家のごっつおランチ」はまさに遠野市で体験できる異日常であった。

八戸市にも、せんべい汁や馬文化、横丁などといった伝統文化が沢山残っている。これらは、我々にとって当たり前だが他者から見ると「異日常」なのかもしれない。SNSやメディアを通じて八戸圏域の「異日常」を新たな観光資源として、多くの人にアピールしていきたいと感じた。



農家民宿 Agriturismo 大森家



農家のごっつおランチ

2. 翌月の活動予定

ふるさと寄附金業務・新規返礼品提案、SNS 発信、イベント運営、ラジオ出演。